

0. はじめに

この同窓会報の原稿を依頼されるのは、今回で3回目になります。原稿を書きながらふと疑問が湧きました。

「この文章、一体どれだけの矢東関係者が読んでいるのだろう。」

思いつくのは今春の卒業生。本校現職員。同窓会役員。他は・・・浮かばない。私は若者の立場から大人世代へ向けてのメッセージを発することを考えながら文章を書いています。前号、前々号の内容を覚えていらっしゃるでしょうか。男女問わず幅広い年代の会員が手軽にアクセスして読むことができる方策をお考え頂きたく存じます。これは私からの問題提起です。

1. 昨春の受験結果（2020年度入試）

昨春は翌年度からの入試変更を意識し、かなり現役志向の強い入試が展開されました。既卒生は現役時の受験に納得せず、こだわりを持ってあと1年勉強したいという者が例年になく多数おりました。その結果、1学年4クラス体制になってから最多の10名が国公立大学に合格しました。合格者数、合格先などの詳しい情報は本校ホームページの「進路室より」(http://www.tochigi-edu.ed.jp/yaitahigashi/nc2/?page_id=259)に掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

2. 2020年度の進路部の動き

(1) 高校生と大学生のための金曜特別講座

これは東京大学が2002年に始めた企画です(詳細は金曜講座のホームページ<http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/> をご覧ください)。新型コロナウイルス感染症拡大による全国一斉休校中の4月、東京大学から案内をいただき、進路行事への影響(オープンキャンパスや出張講義の中止による大学人の講義を聴く機会の喪失)を予想して、導入を即決しました。3学年併せて40人程の生徒から視聴の申し込みがあり、人文科学、社会科学、自然科学等さまざまなテーマの講義を視聴しました。講義終了後に質疑応答の時間が設けられるのですが、意識の高い全国の高校生から寄せられる質問は面白い。中には中学生からの質問もありました。本校生に良い刺激となってくれるといいのですが。

(2) 医学科セミナー

2019年度入試で現役既卒それぞれ1名ずつ医学科進学者が出ました。附属中出身者の中に医学科を目指す生徒が出てきたので(あるいは今後増えることを予想し)、進級目前の3月に意識を高めるべく、医学科を目指す2年生(今春の卒業生)とその保護者を対象に医学部専門予備校富士学院の講師を招いて講演会を企画しました。しかし、全国一斉休校の影響で3月に実施することはできませんでした。今春の卒業学年には医学科を志望する生徒がこれまでになく多く在籍したので、様々な行事が中止・変更を余儀なくされる中でも何とか実施したいと調整し、夏休みになる直前の連休初日7月23日(木)に開催いたしました。本校職員も校長をはじめ、3年担任他数名が視聴しました。医学科に特化した話はいつもの進学講演会と味わいが異なり、参加者には非常に好評でした。ちなみに富士学院が栃木県内の公立高校で講演会を行うのはこれが初めてとのことです。

(3) 大学出張講義

この企画運営にはぎりぎりの判断を迫られました。本格的に学校が再開したのが6月で、多くの学校行事の組み直しが求められました。さらに、大学も前期はオンライン講義がほとんどで、学生の指導だけでも手一杯。例年講義して頂いている宇都宮大学は、高校からの依頼をすべて断ることをホームページ上で公表しました。実施が不可能になることを想

定しながら、担当職員は宇都宮大学以外の大学へのオファーを続けました。さらに今回は法学分野の大学の都合がつかなかったため、法務省に連絡をして事情を説明したところ、検察庁と法務局から職員を派遣していただける形で話がまとまりました(この手は博打でした)。オファーした大学側の都合と本校の都合がうまく合い、出張講義を10月16日(金)に実施することができました。一部の講義はZoomを使ったオンラインで行われ、まさに今大学で行われている形そのものでした。実習形式、ワークショップ形式等大学の先生方は様々な工夫をされていました。先述の法学講義ですが、ふだんなかなか聞けない、あるいは見られない内容構成だったようで、受講生徒と担当職員からは高評価を得ました。当日の様子は「進路室より」ホームページに記載していますので、そちらをご覧ください。

http://www.tochigi-edu.ed.jp/yaitahigashi/nc2/?page_id=259

(4) OBOGによる講演会の中止

例年3月の中旬に企画しております。主に大学1・2年生を中心に来校していただき、在校生は卒業生の大学での学びの様子や本校在籍中の受験勉強の振り返り等を聴いています。昨年度は休校で在校生がいなかったために中止し、今年度は是非実施したいと考えるも、年末年始以降コロナウイルス感染が急激に拡大したので、卒業生・在校生双方の健康面を考慮して中止する判断を下しました。

3. 卒業生が在校生に及ぼす影響

この3年間に起きたことを挙げてみます。

(1) 送られてくる郵便物の変化

進路部には毎日多くの大学・専門学校・予備校からパンフレットが届きます。各大学は、前年度の受験状況や入学状況を見て各種資料を送ってくるものと思われます。中には、これまで見たことのないポスターや案内もあります。先述した東京大学の金曜講座や男女共同参画室の紹介ポスターは、一昨年に入学者がいたからだと思われます。また京都大学からは、特色入試とオンラインオープンキャンパスの案内が来ました。これも、昨春既卒生が入学したからでしょう。

(2) 指定校の変化

ここ1、2年の間、生徒・保護者双方からの問い合わせが増えております。前年度指定されたので今年度も指定されるということはない、と申し上げた上で情報を提供しております。校内選考を通過すれば合格、と書いている巷の本もありますが、まちがっています。私は過去に入試本番で不合格になった受験生を見たことがあります。また大学は、今年度から学校推薦型選抜でも学力チェックをするようにと文部科学省から指導を受けています。それゆえ、校内選考を通過しても大学関係者からの評価は厳しいというケースが多く出てくると推察しています。大学からの指定校認定の通知は、過去の卒業生の追跡調査や受験状況等を鑑みて決定されていると思われます。今年初めて指定校認定を頂いた大学もあれば、大学入学後の成績が芳しくない等の理由で注意または指定校見送りの通知を受けた大学もあります。学校推薦で進学した卒業生には矢板東の看板を背負っているという意識を持って学びに勤しんでほしいです。

(3) 海外留学(本校主催のカナダ研修とは別)を考える在校生の登場

これは卒業生だけでなく、上級学年が下級学年に影響を与えていると言った方がいいかもしれません。3年前に1年間本校を休学してノルウェーに留学した生徒(本校卒業後、岡山大学グローバルディスカバリープログラムに進学)がいました。2年前には、日本の大学を経ずに直接中国の大学へ進学した生徒もいました。また、本校在籍中に文部科学省が展開

する官民協働の留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」を使って2～6週間海外に滞在して自分の課題に取り組む生徒も出てきています。それに刺激を受けて校内の応募者も増えてきています。

4. 「あたらしい」が「ふつう」になる

メディアが報じているように、昨年4月以降大学はオンラインによる講義を開始しました。前期はフルオンライン、後期はオンライン形式と対面形式の併用型(ハイブリッド、ブレンディッド、ハイフレックス等呼び方は様々です)を採用している大学が多いようですが、丸1年間フルオンラインという大学も少数あるようです(

https://www.mext.go.jp/kaigisiryō/content/20200914-mxt_koutou01-000009906_15.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)。

いくつかの大学は来年度の指導方針をホームページ上で公開しています。それを見ると、来年度も併用型の指導が主流になりそうです。学生のみなさんには今年の経験を踏まえて、学びを継続してほしいと思います。

大都市の公立高校や一部の私立高校でもオンライン授業が行われていると聞きます。広島県は児童・生徒約30万人分のGoogleアカウントを取得しました(参考

<https://www.buzzfeed.com/jp/akikokobayashi/rie-hirakawa>)。神奈川県では全県立高校がBYOD

方式をとっており、全県立高校・中等教育学校の教員と生徒約14万人にGoogleアカウントを付与しております(参考 https://www.kknews.co.jp/post_ict/20200203_4a)。このような動き

は、少しずつ広がっていくのだろうと想像しています(栃木県がどうなるのかはわかりません)。コロナ騒ぎがなかったら、オンラインツールに関心をもつことはありませんでした。

Google Classroom、Zoom、Webex、Slack等々。これらを上手に使いこなすことができれば、新しい教育が展開されることでしょう。そしてやがて、それらは令和のスタンダードになると予想しています。